平成１８年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学	No. 1 / ３枚		

問１　重篤な副作用に関する次の記述（１～５）の空欄［a～l］に該当する語句を、解答欄に記入しなさい。（１２点）

（１）　［　a　］は、カルバマゼピンやオーラノフィン等が原因で起こる薬剤性血液障害で、特に骨髄で［　b　］産生のみが障害され、著しい貧血を呈する。

（２）　抗生物質を連用すると、腸内細菌叢の菌交代現象により合成が阻害され、［　c　］や［　d　］群の欠乏症を呈することがあり、前者は低プロトロンビン血症や出血傾向、後者は口内炎や神経炎を発症することがある。

（３）　［　e　］は、シクロホスファミドや、イホスファミド投与に伴う膀胱障害で、尿中代謝物の［　f　］が血尿や排尿障害を引き起こす。その治療には［　g　］が用いられる。

（４）　［　h　］は、呼吸困難や乾性咳を主訴とし、胸部X線上、両肺野にびまん性陰影を呈する。インターフェロンや漢方薬の［　i　］の投与によって起こる呼吸器障害である。線維化が進み、不可逆的な変化が生じると［　j　］となる。

（５）　［　k　］は、心室頻拍の一種で［　l　］の延長を伴い、特異的な心電図波形を示す危険な不整脈のひとつである。原因薬として高脂血症治療薬のプロブコールや三環系・四環系抗うつ薬によっても引き起こされることがある。

解答欄

a	b	c	d
e	f	g	h
i	j	k	l

採点	

［　　］

平成１８年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科　目　名	問題枚数	受験番号	氏　　名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学	No.２ ／ ３枚		

問２　急性薬毒物中毒とその治療や診断に関する次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×を（　　）内に記入しなさい。（１０点）

（　　）　ペニシラミンは、銅、鉛、水銀の急性中毒の治療に用いるキレート剤である。

（　　）　メシル酸デフェロキサミンは、ヒ素や鉛など多くの急性金属中毒の治療に用いられるが、鉄中毒には使用不可である。

（　　）　ヨウ化プラリドキシムは、アセチルコリンエステラーゼと結合したカーバメート系殺虫剤の遊離を促進し、アセチルコリンエステラーゼを賦活化し、アセチルコリンの分解能を回復させる。

（　　）　サリチル酸などの酸性薬物の中毒では、炭酸水素ナトリウム投与により尿をアルカリ化して原因薬物の尿中排泄を促進する。

（　　）　アセチルシステインは、アセトアミノフェン大量摂取により枯渇するグルタチオンを補給する目的で使用されるグルタチオンの前駆体である。

（　　）　フルマゼニルは、中枢性ベンゾジアゼピン受容体に高い親和性を有し、ベンゾジアゼピン系薬物の急性中毒の特異的拮抗薬として用いられる。

（　　）　防虫剤のパラジクロルベンゼンを小児が誤食した場合は、胃粘膜を保護する目的で牛乳を飲ませる。

（　　）　催吐剤のトコンシロップは、含有されるアルカロイド成分（エメチン等）の胃粘膜への直接刺激作用と中枢作用により嘔吐を起こさせる。

（　　）　除草剤のパラコートは、アルカリ性でヒドロサルファイトナトリウムなどの還元剤により一電子還元を受けて、安定なラジカルとなり青色を呈する。

（　　）　チオ硫酸ナトリウムは、シアン化合物中毒に対し、ミトコンドリア内の酵素によりシアンと反応し、弱毒性で尿中排泄しやすいチオシアン酸塩を生成する。

採点	

［　　］

平成１８年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科　目　名	問題枚数	受験番号	氏　　名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学	No. 3 / 3 枚		

問３　次の各設問（ａ－b）について、それぞれ７行以内に記述しなさい。

ａ　抗悪性腫瘍薬に共通して起こりやすい副作用を列挙し、抗悪性腫瘍薬の特徴から、共通に起こりやすい理由を解説しなさい。（４点）

b　気管支喘息の治療を受けている患者さんが、緑内障を併発しました。２つの疾患の治療薬を考えるうえで、注意すべき事項を解説しなさい。（４点）

採点	

[　　]